

22生畜第2386号
平成23年3月20日

東北農政局生産経営流通部長
関東農政局生産経営流通部長 あて

農林水産省生産局畜産振興課長

適切な乾乳に当たっての技術的留意事項について

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、生乳の出荷が困難な状況が長く続いている事例が見受けられます。

この場合、強制乾乳は有効な手段の一つと考えられることから、別紙のとおり、酪農家に技術指導を行うに当たって参考となる留意事項をとりまとめましたので、適宜対応方お願いします。

(別紙)

1. 適切な乾乳方法について

「急速乾乳法(一発乾乳法)」により乾乳を行うことを検討して下さい。

ただし、乳量が多い場合は、濃厚飼料を1／2～1／3程度（牛の状態によります）に減らすことにより、乳量を減少（目安として20kg程度まで）させたうえで、急速乾乳法による乾乳をします。

なお、乾乳後も乳房の観察を行い、異常を認めた場合にはもう一度乾乳処理を行いましょう。

急速乾乳法は、以下のように行います。

(1) 基本的な乾乳方法

- ① 乾乳当日、搾乳後に乳頭口を消毒した上で乾乳用軟膏（持続性抗生素）を注入します。
- ② 乾乳用軟膏を注入した後は搾乳を中止します。
- ③ 乾乳後、濃厚飼料の給与を中止します。
- ④ 乾乳3日目頃に乳房の張りはピークに達しますが、乳房には触れないようにして下さい。
- ⑤ 5日目頃から徐々に乳房が縮んできます。

(2) 乾乳用軟膏を注入する際の手順

- ① 乾乳当日の搾乳後、乾いた布タオルかペーパータオルで乳頭を拭きます。
 - ② ディッピングを行い、30秒後に拭き取り、5～10分放置します。
 - ③ アルコール綿で乳頭消毒を行い、乳頭口を重点的に消毒します。
 - ④ 乳頭口から5mmだけ注入先を挿入して乾乳用軟膏を注入します。
 - ⑤ 牛を1時間ほど立たせておきます。
 - ⑥ 乾乳期用のティートシールド剤（乳頭保護剤）を使用します。
- ◎ 乾乳後は、出来ればミルカーの音の聞こえない場所に移動させる等により、搾乳を連想させるような音を近づけないようにして下さい。

乾乳方法について、不明な点等ありましたら、下記へお問い合わせ下さい。

（独）家畜改良センター技術部（佐々木、廣岡）

0248-25-6164 （平日）

090-2272-8903 （土・休日）

2. 生産された生乳の廃棄について

乾乳が完了するまでに搾乳せざるを得なかった生乳については、自己所有の草地に散布する等、周辺の住民や環境に悪影響を与えるないように適切に処理してください。